

①教職課程コアカリキュラム対応表(一覧)

教職課程コアカリキュラム対応表(一覧)

【幼稚園】

大学名	郡山女子大学短期大学部
学部・学科等名	専攻科 幼児教育学専攻

<各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
2	保育内容の指導法 健康	保育内容・方法の研究 健康		
3	保育内容の指導法 人間関係	保育内容・方法の研究 人間関係		
4	保育内容の指導法 環境	保育内容・方法の研究 環境		
5	保育内容の指導法 言葉	保育内容・方法の研究 言葉		
6	保育内容の指導法 表現	保育内容・方法の研究 表現		

<教育の基礎的理解に関する科目等>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
7	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	保育学		
8	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	保育学特論Ⅰ		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			
9	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学特論		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
10	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	保育課程特論		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)			
11	幼児理解の理論及び方法	臨床心理学 臨床心理学演習		
12	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	臨床心理学 臨床心理学演習		
	教育実習			

②教職課程コアカリキュラム対応表

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1)各領域のねらい及び内容

一般目標: 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

- 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標: 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

- 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

[illegible]

- ◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
- ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②教職課程コアカリキュラム対応表

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1)各領域のねらい及び内容

一般目標: 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

- 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標: 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

- 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

[illegible]

- ◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
- ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②教職課程コアカリキュラム対応表

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1)各領域のねらい及び内容

一般目標: 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

- 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標: 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

- 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
- 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

[illegible]

- ◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
- ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②教職課程コアカリキュラム対応表

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1)各領域のねらい及び内容

一般目標: 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。

2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。

3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。

4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標: 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。

2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。

3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。

5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

[illegible]

- ◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
- ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②教職課程コアカリキュラム対応表

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1)各領域のねらい及び内容

一般目標: 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

- 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標: 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

- 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
- 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

[illegible]

- ◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
- ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②教職課程コアカリキュラム対応表

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

全体目標: 教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

(1)教育の基本的概念

一般目標: 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。

到達目標: 1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。
2) 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

(2)教育に関する歴史

一般目標: 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。

到達目標: 1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。
2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。
3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。

(3)教育に関する思想

一般目標: 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

到達目標: 1) 家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。
2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。
3) 代表的な教育家の思想を理解している。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	項目	(1)		(2)			(3)		
	到達目標／授業回	1)	2)	1)	2)	3)	1)	2)	3)
授業科目名及び授業回（シラバスのページ番号）	保育学	1	○						
		2		○	○			○	○
		3		○	○			○	○
		4		○	○			○	○
		5	○						○
		6		○		◎	○		○
		7					○		
		8					○		
		9	○						
		10					○		
		11					○		
		12		○	○		○	○	○
		13					○		○
		14					○		
		15	○						
	(p15)	1							
		2							
		3							
		4							
		5							
		6							
		7							
		8							
		9							
		10							
		11							
		12							
		13							
		14							
		15							

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回
にわたって全体的に行う場合

②教職課程コアカリキュラム対応表

教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

全体目標: 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

(1)教育課程の意義

一般目標： 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。

到達目標：1) 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。
2) 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している
3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

(2)教育課程の編成の方法

一般目標: 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。

到達目標：1) 教育課程編成の基本原則を理解している。
2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
3) 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

(3)カリキュラム・マネジメント

一般目標: 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

到達目標：1) 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。
2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

[illegible]

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合
○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②教職課程コアカリキュラム対応表

幼児理解の理論及び方法

全体目標: 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。
幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

(1) 幼児理解の意義と原理

一般目標: 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。

到達目標: 1) 幼児理解の意義を理解している。

2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。

3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。

(2) 幼児理解の方法

一般目標: 幼児理解の方法を具体的に理解する。

到達目標: 1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。

2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。

3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。

4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。

幼児理解の理論及び方法		項目	(1)			(2)			
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	1)	2)	3)	4)
授業科目名及び授業回（シラバスのページ番号）	臨床心理学	1	○						
		2	○						
		3	○						
		4			○				
		5			○				
		6		○					
		7		○					
		8		○					
		9		○					
		10							
		11							
		12							
		13							
		14							
		15							
	臨床心理学演習	1						○	○
		2						○	○
		3						○	○
		4						○	○
		5						○	○
		6						○	○
		7				○	○		
		8				○	○		
		9				○	○		
		10				○	○		
		11							
		12							
		13							
		14							
		15							

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合

○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合

②教職課程コアカリキュラム対応表

教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

全体目標: 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。
 幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む)を身に付ける。

(1)教育相談の意義と理論

一般目標: 学校における教育相談の意義と理論を理解する。

到達目標: 1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。
 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

(2)教育相談の方法

一般目標: 教育相談を進める際に必要な基礎的な知識(カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む)を理解する。

到達目標: 1) 幼児、児童及び生徒の不応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。
 2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。
 3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。

(3)教育相談の展開

一般目標: 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。

到達目標: 1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。
 2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
 3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。
 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	項目	(1)		(2)			(3)			
	到達目標 ／授業回	1)	2)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	4)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	臨床心理学	1								
		2								
		3								
		4								
		5			○					
		6		○				○		
		7		○				○		
		8		○				○		
		9		○						
		10	◎							
		11		○	○					
		12			○			○		
		13							◎	
		14					◎			
	(p29)	15								◎
	臨床心理学演習	1			○					
		2				○				
		3				○				
		4				○				
		5				○				
		6				○				
		7								
		8								
		9								
		10								
		11						○		
		12						○		
		13						○		
		14						○		
	(p30)	15						○		

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回で行う場合

○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う場合